



体育館で自己紹介した後5年生の教室に入る（ちょっぴり緊張気味の園児）、この後はゲームなどですぐ和む

## 教育民生常任委員会 報告

# 初の保・小交流授業

## すぐ仲よく、楽しく

町は、今年の4月に機構改革をし、ひのっこ保育所と子育て支援室「おひさまひろば」の所管を健康福祉課から教育委員会に移管しました。教育民生常任委員会は、6月28日、保・小・中一貫教育のひとつとして、根雨小学校で根雨小児童とひのっこ保育所園児との、初めての交流授業が行われたので、視察しました。その後、教育委員会委員や事務局職員との意見交換を行いました。

6月28日、左の15年プラン概要樹に示してあるように、保・小・中のなめらかな接続を図るため、根雨小学校で同校の児童（5年生19人）とひのっこ保育所園児（年長児15人）との初の交流授業が行われました。

最初に体育館に集まり、自己紹介が行われたが、誰にも緊張した様子が見受けられませんでした。

その後、お兄さんやお姉さんに付き添われて5年生の教室に入り、さっそく「だるまさんがころんだ」のゲームに入ると緊張もほぐれ、和やかな表情になりました。

また、グループに分かれて、お絵かきやゲームも楽しみました。

最後に、「交流は楽しかったです。また交流しましょう。」と長住杏音さん。これに答えて「皆さんは来年6年生です。今日のように1年

生をお世話してください。」と長谷川所長があいさつをすると、「おねがいします。」と園児が続き授業を終了しました。

子どもたちは順応性が高く、すぐ仲良しになりました。

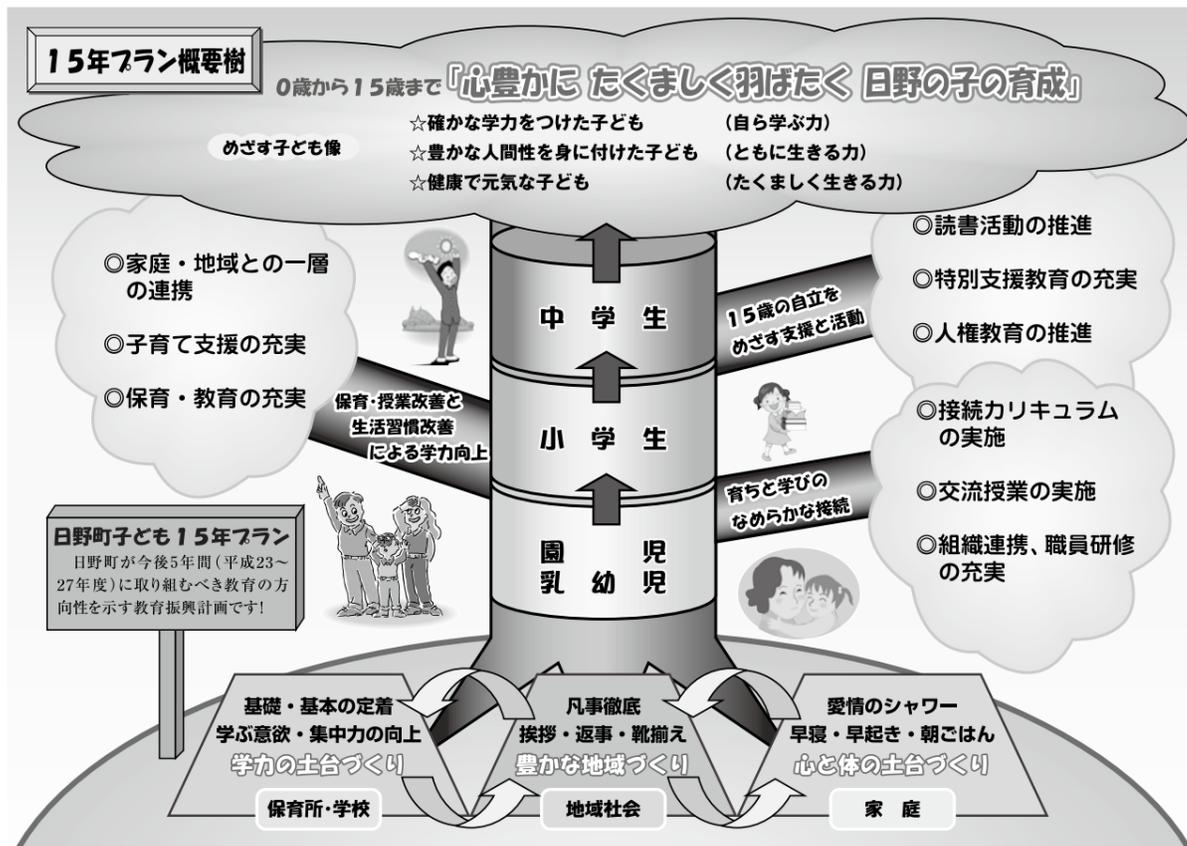
### 教育委員会との意見交換

日野町子ども15年プラン（心豊かに・たくましく羽ばたく・日野の子の育成）について、其山指導主事から説明を受け、意見交換をしました。

子育て支援の見地から、おひさま広場に参加できない家庭の対応策をどうするのか。

また、家庭・地域での教育は個々にならざるを得ないので、PTA等とも一層の連携を図り、家庭教育をしっかりと取り組んでほ

しい。などの意見が出ました。一貫教育は始まったばかり、温かく見守っていききたいと思えます。



保・小・中一貫教育の15年プラン概要樹

### 抱負

教育民生常任委員会  
委員長 松本利秋

本町は過疎化が急速に進展し、少子・高齢化対策が大きなテーマとなっています。これに対応するため、常任委員会として、次のことを積極的に取り組みます。

①月1回を目標に委員会を開催。②教育民生に関係する委員会や団体などの意見交換。③現地視察・調査や自治会に出かけて生の声を聞く活動をしたいと思えます。



数名がグループに分かれて、お絵かきやゲームを楽しむ

# 水防の仮避難所の設置を

## 自治会と協議し確保



松本 利秋議員

えます。

議員 過去の大雨を見ても、風水害の歴史でした。河川整備が行われてきたとはいえ、根雨の洪水ハザードマップ（災害から住民を守る避難地区）を見ると、板井原川が氾濫し、根雨のまちが浸水の危険があると示されています。



避難訓練

特に、根雨のまちに取り入る上から2番目の堰（おしどり荘裏の上側）は、土砂が堆積し、河床から堤防まで僅か。ここからの氾濫が心配です。



板井原川の氾濫が心配される堰

直線にして約50<sup>キロメートル</sup>。想定外の原因事故を考えれば、今、西部町村会で議題には上がっていませんが、何らかの対応をしていかなければならないものと考えます。

### 町防災計画の見直し

議員 防災意識を高めるため、防災教育や訓練。また、自治会のコミュニティの充実が不可欠と考えますが、その推進は。

町長 町は、地震を想定した訓練を行っていますが、豪雨等に対する水防訓練も検討中です。

今後継続して訓練を実施し、町民の防災意識の高揚を図り、万が一に備えたいと思います。

議員 これらを踏まえ、平成11年に策定された「日野町地域防災計画」の見直しは。

町長 策定後10数年が経過し、防災対策も年々整備が進められ、状況が変わっているため、見直し等、整備しなればならないと考えます。

生計が立ち、健康志向から需要は有望視され、特産品振興として行政が支援すべきではないか。

町長 シイタケ生産に取り組んでおられる林家もあり、広葉樹の造林事業を検討したい。本町にあった特産品づくりに町民と共に取り組みたい。

# 森林・林業再生プランの作成を

## 課題もあり検討が必要



中原 明議員

### 林業施策をどう推進されるか

議員 森は木材の供給源だけでなく、環境の供給源であるとの見直しが始まり、林業への再認識が進んでいます。今後10年間を目標に間伐の促進、路網の整備、森林施設の集約化、人材育成を軸とした森林・林業の再生の指針となる森林・林業再生プランの作成が求められているが、本町の林業施策をどう推進しますか。

町長 プランを施行するため森林法も改正されたが、本町は急峻な地形の上、個人所有面積が少ない地域で、どう事業展開が図られるか検討が必要である。当面は国・県の補助事業を活用し、間伐事業等を森林組合と連携を図りながら推進していきたい。

議員 山の面積の約9割は山林である。林業を地場産業として、どう展開していくのか、町独自の政策が全く見えない。

町長 戦後の植林事業は国が国策としてやったもので、町主導でやるべき事業ではない。



機械化が進む集材作業

町長 間伐に予算をつけても森林組合が人手不足で力がない。町は支援をおしまない。

### 特産品づくりを

議員 山を活かした地場産業振興として、シイタケマンの会が誕生、農業と林業の複合経営により



急がれる間伐作業

# 高齢者の見守り活動は

## 答 情報の共有化が大切



小谷 博徳議員

非常に喜ばれている声の裏で不満の声も聞く。それは、バス停が近くても歩くのに苦痛を感じておられる人もある。実態に合わせた運用をする位の幅を持つべきと思うが町長の考えを聞きたい。



足腰の弱いお年寄りの送迎

## 高齢化に対応したまちづくりは万全か

**議員** 過去5年間と将来30年間の高齢化率の推移は、日野郡で1番の伸び率だ。この現実を理解しているか。どういう施策を考えていますか。

これらの対策に医療や福祉施設の充実。介護予防・健康教室・生涯教育などの充実や、移動販売による買い物支援と見守り。タクシー利用の助成など安心・安全に暮らせる施策を講じています。

## タクシー代助成

### 運用の拡大を

**町長** 高齢化率の推移は昭和35年が8割。現在は40割。10年後には50割を超える。このことは、高齢化のみにとどまらず人口の減少・活力の消失・町そのものが老化につながり心配している。

**議員** 4月よりタクシーの40割助成が始まった。対象者はバス停に遠い地区、障がいを持っている人などが対象とされている。運用の拡大をどう考えていますか。

まず申請して頂く、その後色々な意見や問題点を検討してさらに充実したものにしていきたいです。

## 支援のための情報の共有化

**議員** 今春より高齢者見守り活動がスタートし、高齢者の安心安全のために、直接声を聞くという画期的活動で評価します。

あり、この制度の財産と考えるがどうですか。

この活動は、社会福祉協議会でも行っており、町と合わせると延べ1540人の訪問人数となる。大事なことは民生委員会協議会・包括支援センターなどの連携や、情報の共有化が問題解決の糸口で

**町長** 情報の共有化が一番大切なことだ。現にその取り組みはおこなっています。ケース会議を行う必要がある。開催回数については今後の問題として、事例の共有化をすることこそ、高齢者の安心安全、孤立から守れると思っています。是非実現したいと思います。

# 日野町福祉事務所 開設は

## 答 人材確保が一番



梅林 智子議員

**町長** 来年度福祉事務所を設置するにあたり、法的には、所長・査察指導員・現業員・事務員を配置することになっ

**議員** 福祉行政に対する町民からの苦情がある。例えば、「屈辱を味あわされた。」「大勢の男性に取り囲まれ、威圧的態度に何も言えなかった。」「虐待ではないのに、母子を引き離そうとされた。」等、個人の尊厳を深く傷つける事態が発生しています。社会福祉援助に当たる職員の基本理念欠如と言わざるを得ないと思う。町民から信頼される為には、ソーシャルワーカーとしての資質を高め、倫理綱領の徹底を図り、信頼を積み上げなくてはならない。福祉事務所の設置を含めて、相談体制をどうするのか。

限られた人員の中で、十分な体制や専門性を持った職員の配置は容易ではない。地域包括支援センターや健康福祉センターと一体となって、要援護者が安心できる、きめ細かな支援ができるような体制を作らなければならないと考えています。

## 日野郡の連携は

**議員** 平成21年11月の県議会で平井知事は、日野郡3町の福祉事務所移管について、「相互が協力しあった体制を考える必要があるのではないかと」と発言しています。具体的な協力体制はとられますか。

**町長** 福祉事務所の設置については県の方からの話。この仕事は多岐にわたり、個人情報も多く扱う事務所だけに、それに耐えうる職員でなければ勤まらない。人材確保が一番と考えます。

県には支援を求め、職員派遣を要請しています。また町職員を県の福祉事務所に派遣して研修中で、事業ごとに県・町双方で対応し、移行準備中です。



3町の連携については、職員を転勤させるようなことは考えていません。

**議員** 女性職員を含めた体制が必要ですか。又、苦情についてどうするのか。

**町長** 所長・査察専門員・事務の3人の必要要件を定数内では置けないので、兼務の発令も考える。人員体制は未定で、苦情処理は体制がスタートしたら考えます。職員をこわい目に遭わせることは考えていませんでした。



福祉事務所設置が待たれる役場

# 食育推進計画が必要

## 答 策定を検討



安達 幸博議員

養職員、主治医、保護者と連携を取り、個別の給食や生活指導が必要と認識しています。保育所では、除去食や代替食の対応をしています。学校給食は、除去食等の対応はしていません。

### 入居者は町外から

議員 国道沿いの食糧事務所跡に町営ワンルーム住宅が建設されます。建設決定に至った経過を伺います。

議員 保小中一貫教育の良いところは、個別の情報が保育所、小中学校とで共有されることです。「保育所ではできません。学校ではできません」ではなく、どうしたら除去等の対応ができるかを考えることが大切です。医師の診断書があり、保護者が除去食、代替食を希望した場合の対応はどうしますか。



建設地国道付近

議員 入院と高齢者福祉施設から職員住宅の要望があり、低家賃で若者ニーズにあった町営住宅を整備することになりました。設計から建築まで若者ニーズに合う提案（プロポーザル方式）を募集し、事業者を決定します。

教育長 除去食、代替食を作る場合は調理場、調理器具等

町長 町内事業所に町外から通勤されている若者に、日野町に住んで、日野町民になっていただくことが肝要だと思います。

### 食物アレルギー

#### 対応は

議員 保小中一貫教育の開始にあたり、日野町子ども15年プランは食育に対し希薄とされています。その考え方を伺います。



楽しい給食

教育長 日野町子ども15年プランは、楽しく食べる子どもの育成を目指した食育の推進を掲げています。食育は生涯関わりがあるので、日野町食育推進計画は策定に向けた検討を行います。

アレルギー疾患等の幼児、児童には、学級担任、栄

# 島根原発運転中止を求めよ

## 答 町村会で対応



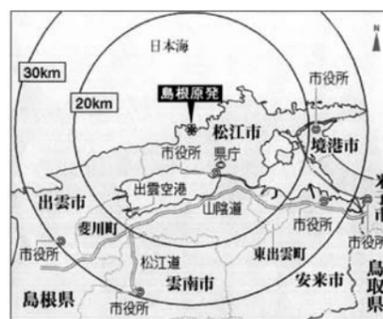
佐々木 求議員

### 西部町村で力合わせ

議員 東日本大震災は自然災害だが、福島原発事故は人災だ。国会でも不破議員（当時）が大津波により電源確保ができなくなり、最悪の事態であるメルトダウンが起こることを具体的に示し、質問した経過があります。

島根原発は、37年と老朽化しており、原子力安全保安院も5段階評価で1の評価だ。昨年3月には、511ヶ所もの点検漏れを1年間隠し続けていたことも発覚した。社長自らが、法令違反やデータ改ざんの繰り返しに「隠ぺい体質やおごりがある。」と述べています。

中電は県との話し合いをやっと始めようとしているが、事故が起きれば日野郡の谷は危険性が高い。米子や境港だ



日野町は島根原発から52km

議員 東日本大震災は自然災害だが、福島原発事故は人災だ。国会でも不破議員（当時）が大津波により電源確保ができなくなり、最悪の事態であるメルトダウンが起こることを具体的に示し、質問した経過があります。島根原発は、37年と老朽化しており、原子力安全保安院も5段階評価で1の評価だ。昨年3月には、511ヶ所もの点検漏れを1年間隠し続けていたことも発覚した。社長自らが、法令違反やデータ改ざんの繰り返しに「隠ぺい体質やおごりがある。」と述べています。

町長 県はE.P.Z拡大など、国や中電に福島原発を踏まえ、点検の実施、安全協定の締結など、5項目の申し入れ行動をしている。町民の安全を考えると、E.P.Z、避難計画、線量計の設置など対応を見直す必要があると思っいる。町民の安全を守らねばならない責任者として注意深く動きを見守る。西部町村会と一致団結し、要望を上げるときには上げます。

### 食材・米納入基準をきちんと定めるべきだ

議員 以前、野菜をはじめとする食材の納入で改善を求めた際、主食の米についても納入者に求められる基準を明確にしておくよう求めました。1年たち今だこの基準が明確に示されていないのはなぜか。納入希望者があつた時に、その基準を明確に示せるようにすべきだ。それも説明責任を果たすことだ。野菜の納入での改善が見られたことは評価するが、稲の栽培、保管などの基準をきちんと持つ

議員 以前、野菜をはじめとする食材の納入で改善を求めた際、主食の米についても納入者に求められる基準を明確にしておくよう求めました。1年たち今だこの基準が明確に示されていないのはなぜか。納入希望者があつた時に、その基準を明確に示せるようにすべきだ。それも説明責任を果たすことだ。野菜の納入での改善が見られたことは評価するが、稲の栽培、保管などの基準をきちんと持つ

議員 以前、野菜をはじめとする食材の納入で改善を求めた際、主食の米についても納入者に求められる基準を明確にしておくよう求めました。1年たち今だこの基準が明確に示されていないのはなぜか。納入希望者があつた時に、その基準を明確に示せるようにすべきだ。それも説明責任を果たすことだ。野菜の納入での改善が見られたことは評価するが、稲の栽培、保管などの基準をきちんと持つ

議員 以前、野菜をはじめとする食材の納入で改善を求めた際、主食の米についても納入者に求められる基準を明確にしておくよう求めました。1年たち今だこの基準が明確に示されていないのはなぜか。納入希望者があつた時に、その基準を明確に示せるようにすべきだ。それも説明責任を果たすことだ。野菜の納入での改善が見られたことは評価するが、稲の栽培、保管などの基準をきちんと持つ



町内産米ごはん（給食センター）

# 抱負

議会広報調査特別委員会  
委員長 小谷 博 徳

○見出しは大きく

○写真も大きく

○文章は簡潔明瞭

議会改革の一つに議会の透  
明性確保が重要な課題です。

情報の全面的開示こそ課題解  
決の一助と考え、議会広報の  
持つ意義と役割の大きさを認  
識し強い責任を感じていま  
す。

新しい体制で、新しい気持  
ちを乗せて、議会だよりをお  
届けしたいと思っています。

## 編集方針

1. 常に町民目線に立った意  
識を持ち続けた編集
2. 議会情報の透明性を高め  
公開度を上げる
3. 行政用語は誰にも分かり  
やすい表現とする
4. 記事は公正さを保ち、客  
観的視点で構成
5. 何より町民に読まれ親し  
まれる議会広報



編集会議

## 組織 △編集・発行責任者▽

議長 佐々木秀明  
議員 長 佐々木秀明  
議員 長 小谷 博徳  
副委員長 安達 幸博  
委員 佐々木 求  
委員 松原 直人  
委員 松本 利秋

## 議会広報調査特別委員会

## 親しまれる広報紙づくり

## 大山町



7月3日視察



## 北栄町

議会広報調査特別  
委員会では、委員会  
活動活性化の一環と  
して、議会広報紙先  
進町である大山町と  
北栄町を視察研修し  
ました。

1. コンピュータによる紙面  
構成、編集作業
  2. 特集記事を取り入れた紙  
面構成と取材活動
  3. 目に飛び込む見出し  
大きな写真  
図形の多用
  4. 文字で埋めない工夫  
情熱と高いレベルを目指  
す委員会
  5. 議会広報といえども、  
ニュース性を重視した、  
より早い発行
- 研修の成果を本町議会広報  
紙づくりに積極的に取り入  
れ、読みやすく、親しみやす  
い広報紙づくりに生かしま  
す。

## あしがき

3月11日、未曾有の東日  
本大震災、4月24日の統一  
地方選挙、本町議会にも2  
人の新人議員を迎え新しい  
スタートを切りました。

町民に愛され、親しまれ、  
読んでいただける「議会だ  
より」づくりにむけて、紙  
面のカラー化と、町民の視  
点にたった編集を心がけま  
した。

変革と草創のスタートは、  
ややもすると過去のしがら  
みや予算の範囲など壁は厚  
いですが、気持ちは熱く編  
集の基礎基本にブレること  
なく期待に応えるようがんば  
ります。

小谷 博徳

## 議会だよりのご感想を お聞かせ下さい。

編集／議会広報調査特別委員会  
〒689-4503  
鳥取県日野郡日野町根雨101  
Tel 72-0335  
Fax 72-1484  
Mail:gikai@town.hino.tottori.jp